43th Concert
Concertino di Kyoto

コンチェルティーノ・ディ・キョウト第４３回演奏会

2001　11／24土曜日　7：00PM(6:30開場)

京都市東部文化会館

主催／才能教育研究会京都支部

P R O G R A M

モーツァルト　ディベルティメント K.136 二長調
Mozart　*Divertiment K136 in D*

アレグロ／アンダンテ／プレスト
Allegro / Andante / Presto

ヘンデル　合奏協奏曲 作品6 第5番 二長調
Handel　*Concerto Grosso Op6 No5 in D*

ラルゴ／アレグロ／プレスト／ラルゴ／
アレグロ／メヌエット ウン ポコ ラルゲット
Largo / Allegro / Presto / Largo / Allegro / Menuet un poco Largetto

---

メルカダンテ　フルート協奏曲 ホ短調（独奏：宮前丈明）
Mercadante　*Flute Concerto in e*

アレグロ マエストーゾ／ラルゴ／ロシア風ロンド
Allegro maestoso / Largo / Allegro vivace scherzando

スーク　弦楽のためのセレナード 作品6 ホ長調
Suk　*Serenade for Strings in E*

アンダンテ・コンモート／アレグロ・マ・ノン・トロッポ・エ・グラツィオーソ／
アダージョ／アレグロ・ジョコーソ・マ・ノン・トロッポ・プレスト
Andante con moto / Allegro ma non troppo e grazioso / Adagio / Allegro giocoso ma non troppo Presto

宮前丈明（みやまえ　たけあき／Takeaki Miyamae）

1966年生まれ。9才よりフルートをはじめ、高橋利夫氏に師事。2年弱で研究科を終了、13才までに主なエチュード、レパートリーを終了する。1977年から79年にかけて巨匠マルセル・モイーズ（1889-1984）の特別な薫陶をうける。1976年から81年にかけてカナダ、アメリカ各地NFAフルートコンベンション等でリサイタルを行い絶賛される。高卒後、横浜市立大学医学部に進学、卒業後すぐに同助手。1990～93年アマチュア・オーケストラ新交響楽団に所属、92～93年首席奏者。新響退団後は、作曲家安藤由布樹を代表・音楽監督とする音楽家グループ「音の絵本」に所属、ピアニスト高井清志氏らと共に音の絵本主催のコンサートや各種ホームコンサートに出演する。その演奏はこれまでフルートに興味のなかった音楽愛好家からも熱狂的な支持を受け、着実にファンを増やしていった。2000年7月、安藤由布樹氏の個展において同氏の「フルートとピアノのためのソナタ」を初演、好評を博す。2000年8月、ルイ・モイーズ　マスタークラス（京都）および2001年3月、春期国際声楽アカデミーに併設されたJ.M.タンギー氏のクラスを受講（軽井沢）。今春、横浜市立大学医学部助手を退職、同非常勤講師として残務整理と後進の指導にあたりつつ、フルーティストとして本格的な活動を再開した。

ディベルティメント K.136 二長調　モーツァルト

18世紀の貴族たちは食事の時にはお抱えの楽団に伴奏音楽を演奏させたものである。ディベルティメントはそのために作られたもので、肩のこらない気軽な内容を持っている。編成や形式は様々で弦楽合奏だけのもの、管楽器が入ったもの、組曲のようにいくつもの楽章から成っているものもある。モーツァルトのディベルティメントは20数曲残っているが、この二長調はもっとも初期、1772年に作曲された3曲のうちの1曲で、最も有名な曲の一つである。前年までの2度にわたるイタリア旅行の収穫である流麗な旋律と、はつらつとした元気さにあふれている。

合奏協奏曲 作品6第5番 二長調　ヘンデル

作品6の合奏協奏曲12曲が作曲された1739年頃はヘンデルにとって2年前の重病、それに続く王室劇場（彼はそこの支配人であった）の破産・閉鎖、反対派のはげしい妨害など、失意と苦悩の時代であった。それにも関わらずこの曲集は彼のすばらしい創作力を示し、バロック時代の器楽曲の中でも屈指の作品に数えられる。2つのヴァイオリンとチェロを独奏部とし、独奏ヴァイオリンの朗々とした上行音型にはじまる重厚な第1楽章から自由なフーガ、スケルツォ風のプレスト、緊張をひめた美しいラルゴ、舞曲風のアレグロと次第に熱を加えてくるが、それを鎮静するかのような落ち着いたメヌエットの変奏で終わっている。

フルート協奏曲　ホ短調　メルカダンテ

メルカダンテは、イタリア生まれの作曲家で、若い頃はもっぱら器楽作品のみに集中して作曲活動がなされていたが、ロッシーニによりその活躍が認められ、やがてはオペラの作曲家としてヨーロッパ中に知られるようになった。しかし、60曲にも及ぶオペラがほとんど録音されていないために正当な評価を受けていない。現在では、ここに紹介するフルート協奏曲がわずかに知られている程度である。1819年に作曲されたこの曲は青年時代の作品で、第1楽章の2つの主題－緊張感あふれる第1主題と優美な旋律の第2主題－の鮮やかな対比、第2楽章の弦楽による重々しい序奏に対する清楚な旋律、第3楽章の生き生きとした付点のリズム等若い生命力を感じさせる作品になっている。

弦楽のためのセレナード 作品8　スーク

ドヴォルザークの娘婿でチェコの作曲家であるヨゼフ・スークは同姓同名のヴァイオリニストの祖父である。弦楽四重奏団の第2ヴァイオリン奏者として活躍したこともあって、弦楽器の性能を生かした作品を多く残している。学生の頃からドヴォルザークに可愛がられ、別荘にもよく招かれた。1892年に訪れたスークは娘オチリエと出会い、彼女への思いがこのセレナードとなったと言われている。

Concertino di Kyoto

指揮　新井覚
Violin　山本佳奈　壁瀬　智　磯貝文彦　大八木文人　上田彩希　磯貝碧里
長谷川英司　渡邊乃梨子　井狩苑子　前川　碧　山本怜奈
土井　恵　八木愉希絵　二ヴォン慧里紗
Viola　江村孝哉　佐々木めぐみ　佐々木弘明　江村美由紀　仲佐悦子
Violoncello　森田健二　渡邊真理子　長瀬香恋　石黒　豪
Contrabass　広瀬　哲